

大阪府情報活用能力ステップシートの関連項目

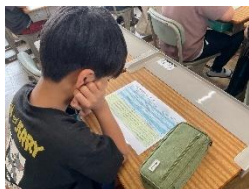
E-STEP1、STEP2、STEP3

① ねらい

1. 児童に情報活用能力の見える化

各学年に合わせたルーブリックを使用し、子どもたちが自分に求められる能力や次のステップを意識できるようにする。

※ICT技術だけでなく、情報を活用して考え、表現し、問題を解決する力を育て、その過程を自覚させることがねらい。



⑤ 子どもの変容

1. 学習意欲・主体性の向上

ルーブリックを用いて目標を意識し、ICTを活用して自ら課題に取り組む意欲が高まった。

2. 情報収集・整理・表現力の向上

効率的に情報を探し整理し、プレゼンテーションやデジタル作品で考えを表現できるようになった。

3. 自己調整能力の向上

ルーブリックに基づく自己評価や相互評価を通じて、自分の学びを客観的に捉え、次の学習を調整する力がついた。

4. 協働的な学びの深化

ICTや対話を通じて他者の意見を尊重し、協力して課題解決に取り組む力が向上した。



② 指導の流れ

P 目標設定 (ルーブリックで)

児童が学習課題に対し、ルーブリックを用いて達成目標を具体的(上級・中級・初級)に設定。

D 授業

個別最適な学びと協働的な学びをICTや対話をとおして展開。

C ふりかえり (ルーブリックで評価)

自分の学びを自己評価・相互評価する。

A 次の学びへ

児童のスキルを意識して、学習課題の設定。

③ 活用のポイント

1. 情報活用能力スキルルーブリックの活用

本校のルーブリックを全学習活動の基盤とし、児童が身につけるべき情報活用能力を明確に意識させ、自己評価・目標設定に繋げる。

2. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な促進

ルーブリックの活用を通して、児童一人ひとりの進捗に応じた個別学習を深めるとともに、他者との協働を通じた学び合いを促し、相互理解を深める。

3. 学びの可視化と共有

スプレッドシート等のデジタルツールを活用し、児童の目標、進捗、ふりかえりを視覚的に共有することで、自身の学びを客観的に捉え、質の高い学びへと繋げる。



④ 教員の関わり

1. 情報活用能力の「意識」

教科の目標だけでなく、情報活用能力を意識して指導する。

2. 学習環境の設定と個別支援

ICTツールや学習コンテンツの準備、アクセス方法の提示など、子どもたちがスムーズに学べる環境を整える。つまづいている子どもには、個別にヒントを与えたり、必要な情報を提供したりして、適切な支援を行う。

3. ルーブリックを用いたふりかえり

校内で共通のルーブリックを評価基準として使い、ふりかえりを行うことで、子どもが自分の強みや課題を明確に認識できるようにする。